

# 地域の必要に応えるために

平成25年3月  
公立森町病院  
森町家庭医療クリニック  
在宅医療連携拠点事業

# 地域の概要

森町北部には広大な中山間地域が広がっている

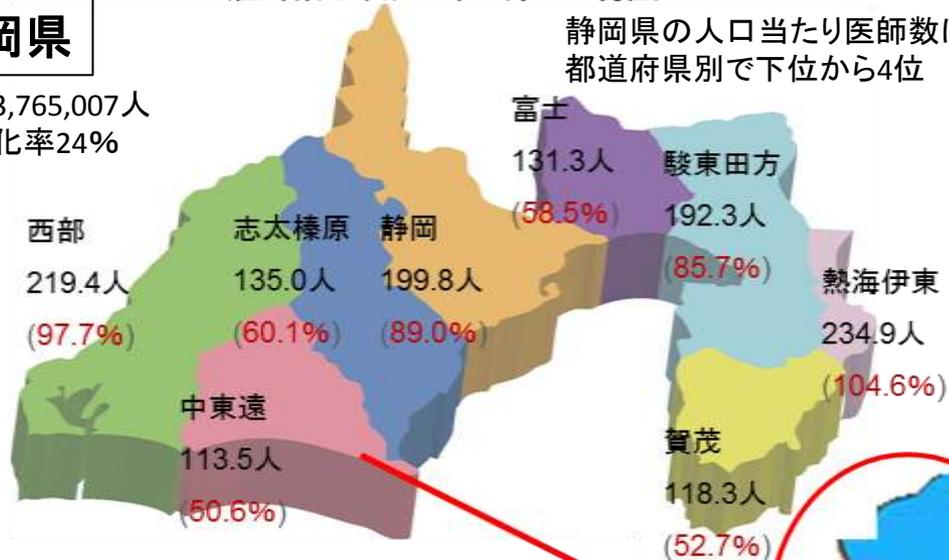
## 静岡県2次医療圏別人口10万人あたりの医師数

( )内の数値は全国平均に対する割合を表す  
(医師数は平成20年12月31日現在)

### 静岡県

人口3,765,007人  
高齢化率24%

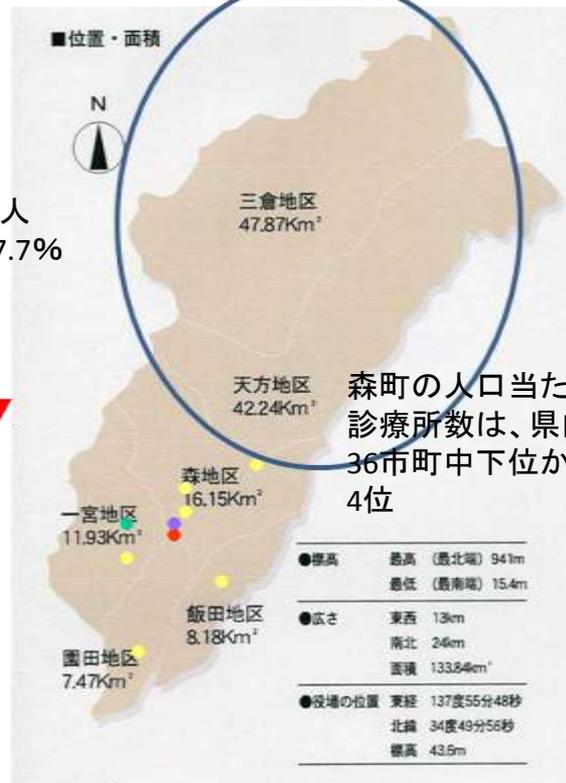
静岡県の人口当たり医師数は、  
都道府県別で下位から4位



### 森町

人口19,435人  
高齢化率27.7%

### 振興山村指定地域



森町の人口当たり  
診療所数は、県内  
36市町中下位から  
4位

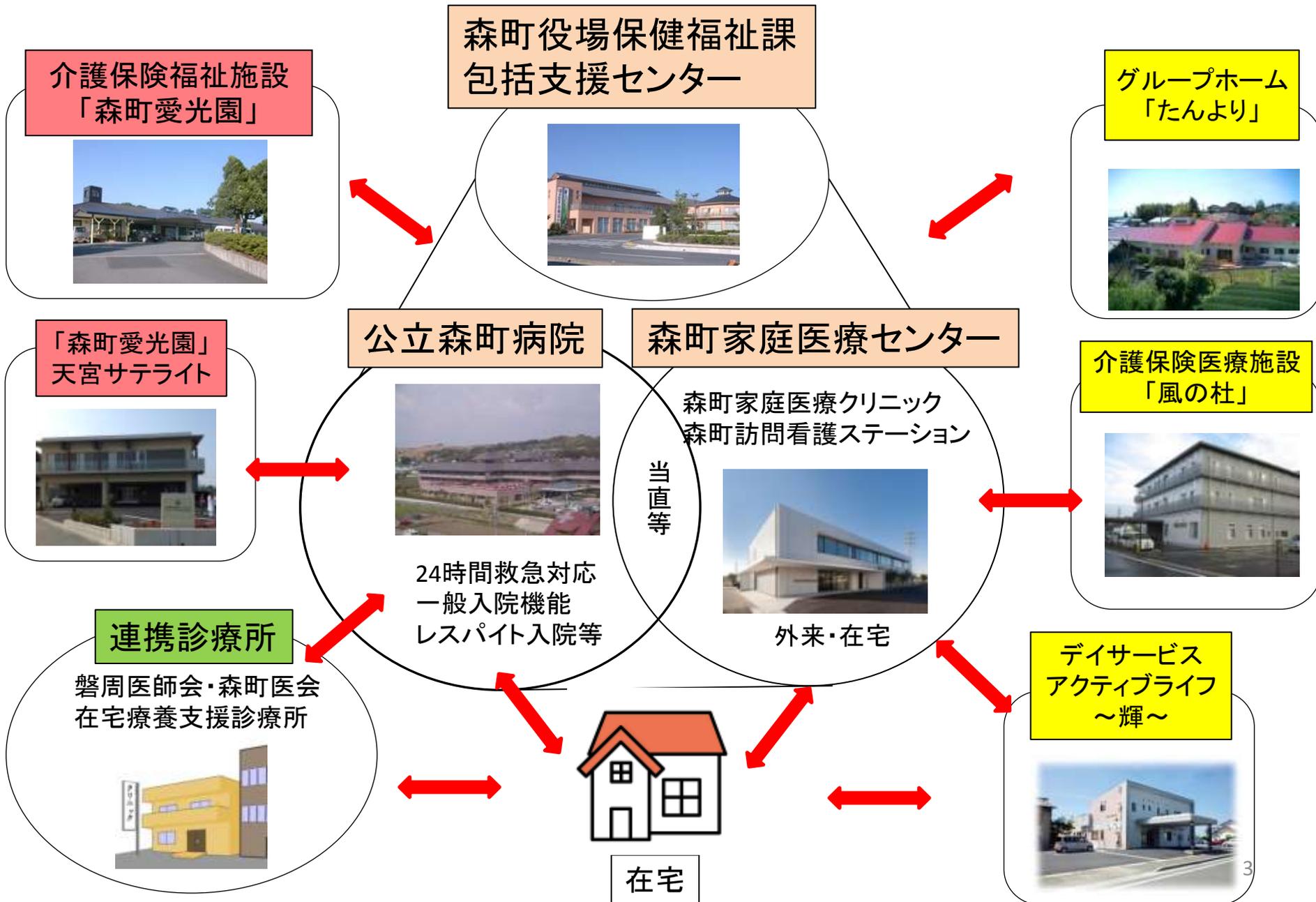
中東遠2次医療圏は人口当たり医師数が  
全国平均の50.6%と、県の2次医療圏中最  
も少なく、主として6つの市町で運営する公  
立病院が急性期医療を担っている。  
現在磐田市立総合病院②が中核的役割  
を担っているが、平成25年5月に掛川市立  
総合病院④と袋井市立袋井市民病院③が  
統合し、中東遠総合医療センター⑦として、  
もう一つの中核的機能を担う病院となる予定。  
公立森町病院①と菊川市立総合病院⑤、  
御前崎市立総合病院⑥が連携していく方向。

### 中東遠

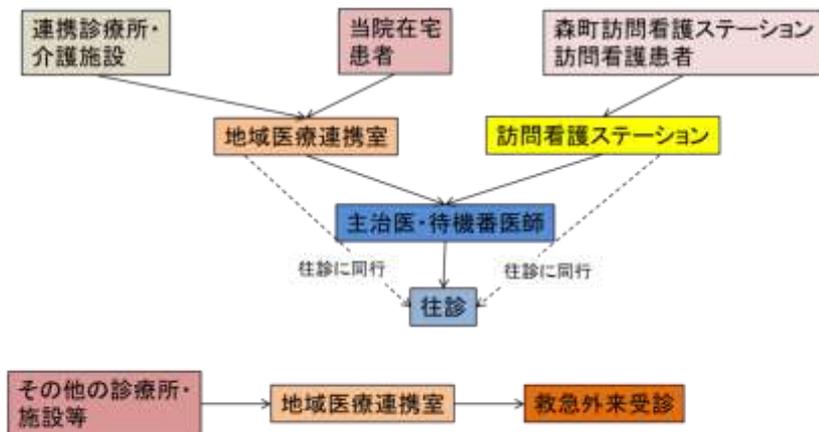
人口477,637人  
高齢化率22%

- 公立森町病院
- 開業診療所
- 特別養護老人ホーム
- 老人保健施設

# 森町の医療・介護・福祉の連携体制

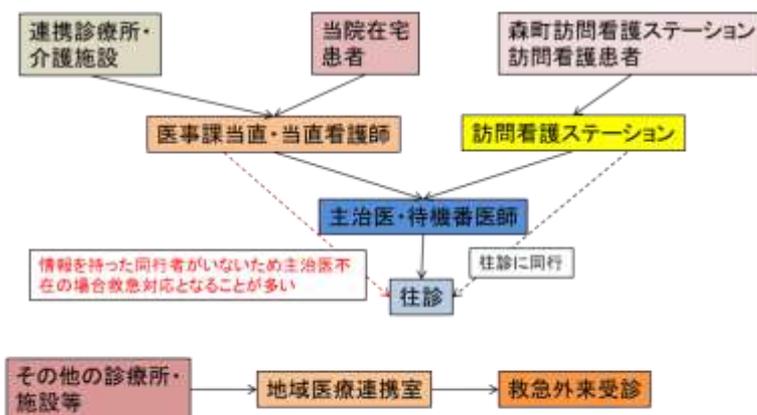


## 在宅患者・診療所・介護施設等のバック・アップ体制 (時間内)



☆関係書類・マニュアル【医事課・管理課】

## 在宅患者・診療所・介護施設等のバック・アップ体制 (休日・時間外)



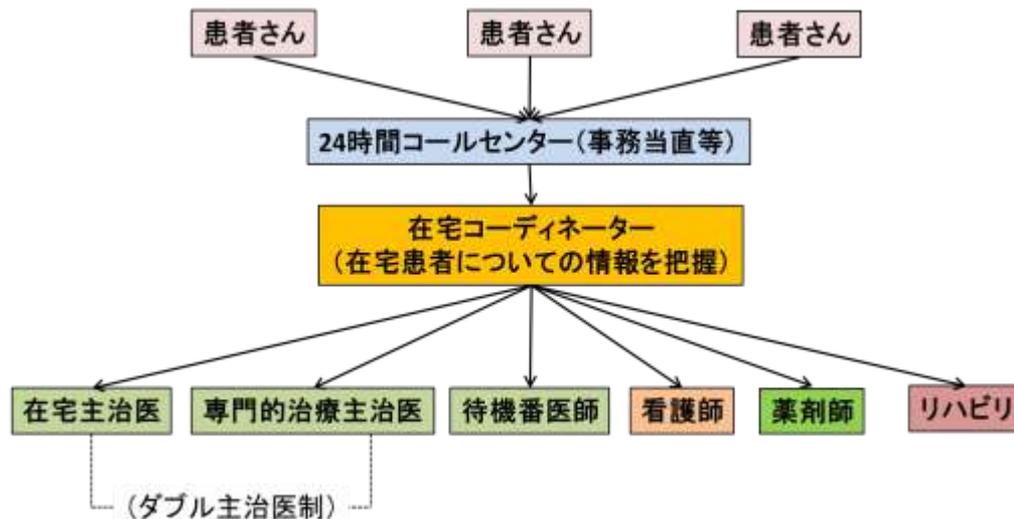
☆関係書類・マニュアル【医事課・管理課】

訪問看護が介入している在宅患者については、訪問看護ステーションが24時間対応し、実質的にコールセンター機能を果たしてきた。

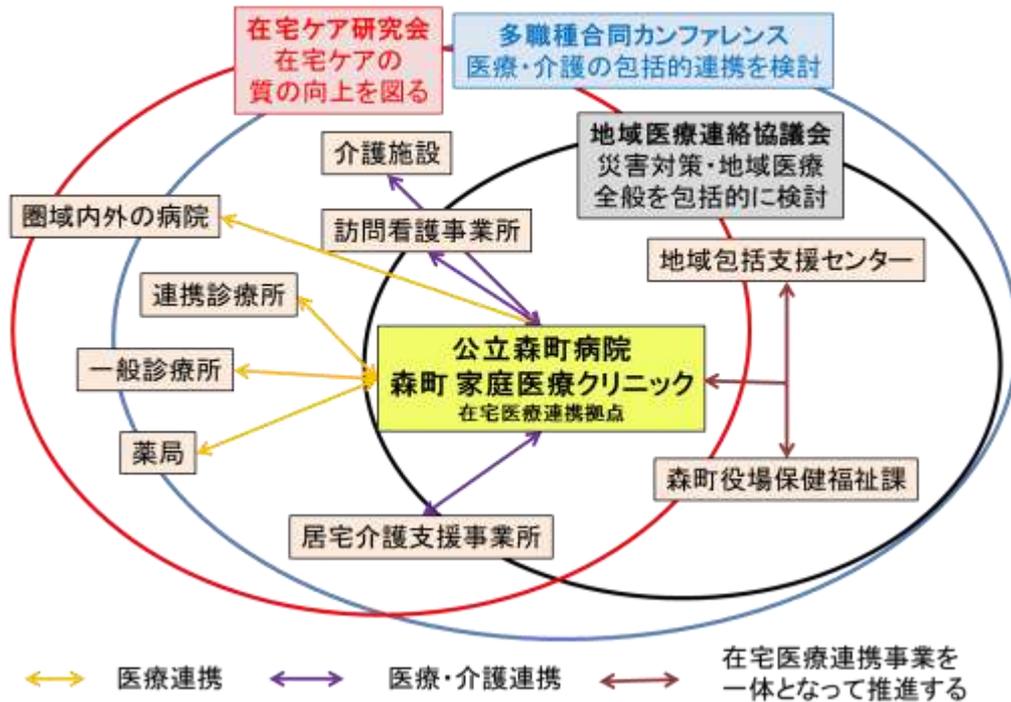
訪問看護が介入していない在宅患者の場合、時間内は病院の地域医療連携室が窓口となり対応してきたが、時間外は救急外来対応となっている。

不必要な救急受診を避け、できるだけ在宅で対応するためには、在宅患者の情報を把握し、患者に近い立場から情報を各専門家に伝える在宅医療コーディネーターの存在が必要と思われる。

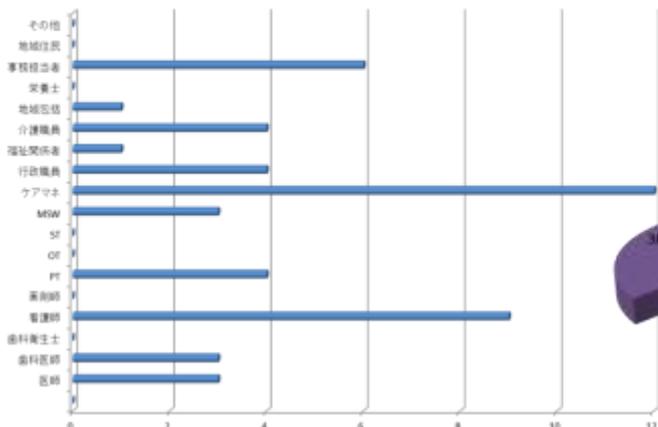
在宅医療コーディネーターは、医師の往診補助者として、在宅診療に必要な間接業務を担うと同時に、より患者に近い立場で、患者の代弁者として各専門職につなげる役割も期待される。



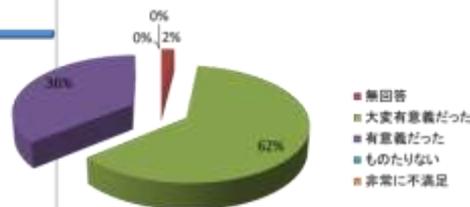
# 院外関係諸機関との連携・会合等



## 第1回 多職種合同カンファレンス出席者



### 参加後のアンケート



## 第1回在宅ケア研究会 (H24.8.23)



在宅連携拠点事業の説明  
在宅療養支援診療所医師による事例発表等

## 第1回多職種合同カンファレンス (H24.10.22)



在宅医療に関する問題点の抽出をグループ討議形式でおこなった

## 第2回多職種合同カンファレンス (H24.12.17)



第1回多職種合同カンファレンスで抽出された問題点に対する解決策をグループ討議形式で検討

# 住民への普及啓発・行政との連携

## 住民向け在宅医療講演会 (H24.9.8)



いばらき診療所  
照沼秀也先生の  
住民向け講演会  
「在宅医療って  
なあに」  
多くの住民が参  
加した

## 静岡県総合防災訓練 森町会場 (H.24.9.2)



行政・住民ともに森町家庭医療センター(救護所)・森町病院  
(救護病院)で訓練を行った。

## 住民向けパンフレット作成

## 森町病院友の会主催の地域懇談会 (H24.11.17 三倉地区)



この回から町の保健福祉課長も同席  
森町を6地区毎に、年間通して合計6回  
地区懇談会を開催



在宅医療についてのパンフレットの後に  
在宅医療Q&A集も作成し各戸配布した

## 森町同胞無線

毎月15日森町内  
各戸に配布された  
同胞無線機を通じ  
て、在宅医療につ  
いての広報を行っ  
た。



## 地域医療連絡協議会

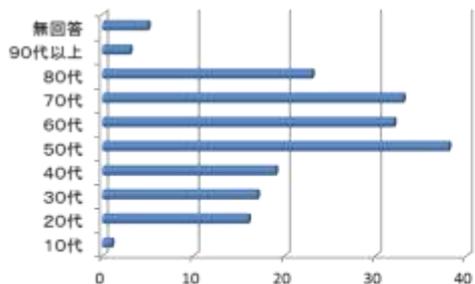
H24年1月地域医療全般について協議するため、  
森町の保健福祉課、地域包括支援センター職員、  
訪問看護ステーション職員、森町病院職員、森町  
家庭医療クリニック所長が委員となり、副町長をオブ  
ザーバーとして協議会が立ち上がった。今年度の  
議題は、災害対策と在宅医療に集約された(今年  
度は4回開催)。訪問看護ステーションが中心とな  
り在宅患者への災害マニュアルを作成した。

## 在宅医療に関する意識調査(一般対象)

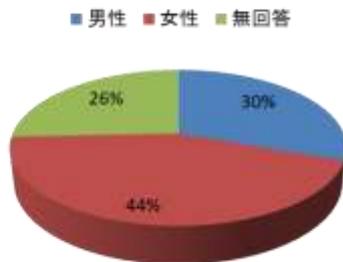
- 調査期間 : 平成24年10月1日 ~ 30日
- アンケート対象者 : 無作為に抽出した森町民400名(外国人含む)

☆ アンケート配布数400 アンケート回収数187 回収率46.8%

回答者の年代

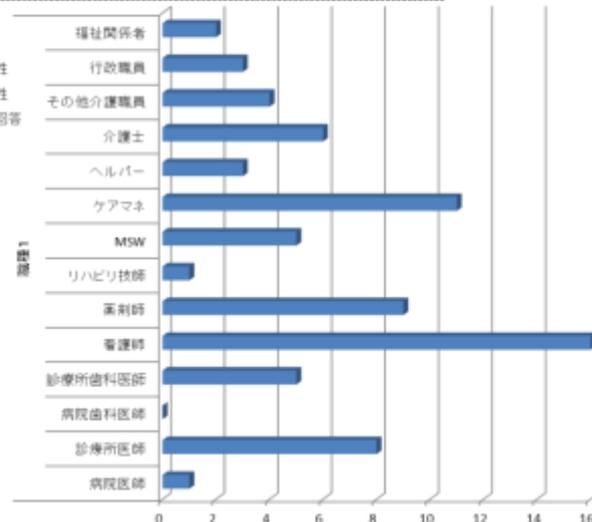
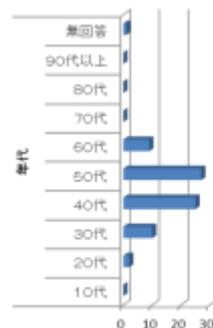
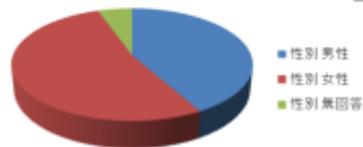


回答者の性別



## 在宅医療に関する意識調査(医療・介護関係者対象)

- 調査期間 : 平成24年10月1日～30日
  - アンケート対象者 : 近隣の医療・介護関係者
- ☆ アンケート配布数150 アンケート回収数74 回収率49%



## アンケート調査から抽出された課題

- 在宅医療について住民への情報提供が不十分。一般の方はできるだけ在宅療養を希望するが、必要があれば入院したいと思っている方が多い。在宅療養を支える入院機能も必要である。
- 在宅医療を希望しない理由として「家族に負担をかけたくない」というものが最も多く、在宅療養が実現困難と思う理由は、「仕事や子育てで介護する時間がない」「症状が急変した時の対応に不安がある」「介護できる居住環境でない」が多かった。家庭の介護力や居住環境、医療の質への不安をいかに軽減するかが課題。
- 関係者へのアンケートでは、今後さらに在宅医療が普及すると考えているのは62%で、あまり普及することはない、現状より減っていくと考えているものが合わせて17%、長期入院や施設入所への移行が進むと考えているものが16%だった。在宅医療の普及を阻む要因は、医療提供側の問題と患者・家族側の問題を挙げているものが多く、在宅医療の普及のためには、医療・介護職の育成と医療提供体制の構築、家族への啓蒙と支援体制の構築が必要と思われた。

## 今後の対応策

- 住民への啓蒙活動の継続、在宅医療を支える入院機能の提供、家族・介護者の負担軽減、24時間対応可能な体制構築、医療・介護職の支援体制構築等

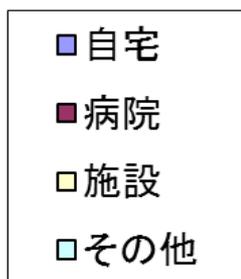
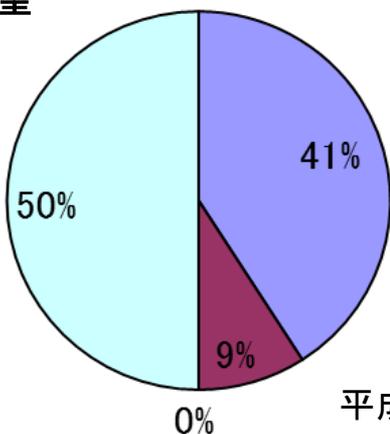
# 抽出された課題と今後の対応策1

- 多職種合同カンファレンスや在宅ケア研究会などは、関係者間の情報共有に有効であり、今後も継続していく必要があると思われた。今後さらに多くの関係者が参加しやすくなるような工夫と努力が必要と思われる。
- 住民への普及啓発活動の継続も重要だが、関心を持たない住民に対しては、講演会や言葉だけでは伝わりにくく、視覚に訴える手段等も必要と思われた。また一方的な情報提供だけでなく、「住民の会」などと連携し、意見交換することも有効と思われた。
- 在宅医療に踏み出す患者・家族にとって、介護負担に対する不安、医療知識のないことへの不安、また緊急時の対応など医療の内容に対する不安などが多い。またショートステイなどの介護サービスは、2～3か月前からの予約が必要であり、医療処置が必要な患者の介護施設の受け入れは悪い。在宅医療を普及させるためには、病院などが一時的に在宅患者を受け入れる垣根の低い入院機能も必要と思われる。
- 森町病院事業では、森町病院と森町家庭医療クリニックが一体として機能することで、在宅患者のスムーズな入院も可能としている。今年度は、連携在宅療養支援診療所からのレスパイト入院にも対応し、在宅医療を支える医療者と介護する家族への支援を行ってきた。家庭医療クリニックは家族ぐるみで診察することで、在宅に近い外来形態を提供しており、在宅療養移行への一段階となることも期待される。

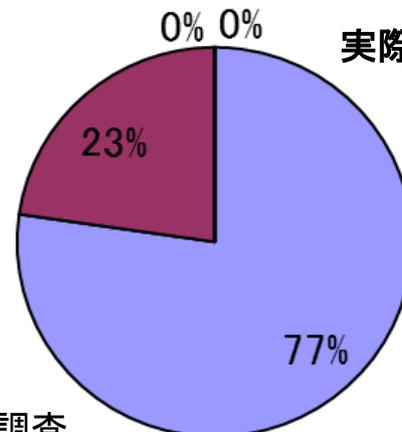
# 抽出された課題と今後の対応策2

- 病院の退院支援担当者が在宅医療に対する十分な情報を持っていることが必要であり、急性期病院の退院支援部門との連携強化も必要と思われる。急性期病院から直接在宅医療へ移行するのではなく、在宅療養支援病院に移ってから退院調整することも方法の一つと思われる。
- 在宅で専門的治療が継続できるかどうかという不安が患者・家族に強いことから、治療専門主治医と日常の全身管理を行う在宅主治医とのダブル主治医制導入も、在宅医療の普及に有効と思われる。そのためにも在宅医療コーディネーターが介入することが望ましい。
- H23年度森町病院訪問診療患者を対象として行った、訪問診療導入時のアンケートでは「最期まで自宅で過ごしたい」と希望した患者は41%だったが、実際に最期まで在宅で過ごした患者は77%だった。在宅のバックアップ体制を提示した上で、医療者も患者・家族も「まずはできることからやってみよう」という姿勢で取り組むことが重要と思われた。

看取り先の希望  
往診導入時



実際の看取り先



平成23年度森町病院往診患者調査